

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 3 部門第 3 区分
【発行日】平成 17 年 10 月 13 日 (2005.10.13)

【公開番号】特開 2004-27054 (P2004-27054A)
【公開日】平成 16 年 1 月 29 日 (2004.1.29)
【年通号数】公開・登録公報 2004-004
【出願番号】特願 2002-186452 (P2002-186452)
【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 G 18/42

【 F I 】

C 0 8 G 18/42 A

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 6 月 6 日 (2005.6.6)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】ポリウレタン樹脂の製造方法
【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

ポリオールとポリイソシアネート化合物とを反応させてポリウレタン樹脂を製造する方法において、ポリオールの少なくとも一部として、(1)水酸基価 5 ~ 30 および(2)総不飽和度が 0.07 以下のポリオキシアルキレンポリオール(A)とラクトンとを反応させて得られるラクトン系ポリオールを用いることを特徴とするポリウレタン樹脂の製造方法。

【請求項 2】

ポリオールとポリイソシアネート化合物とを反応させて得られるイソシアネート基末端プレポリマーと硬化剤を反応させることによりポリウレタン樹脂を製造する方法において、ポリオールの少なくとも一部として、(1)水酸基価 5 ~ 30 および(2)総不飽和度が 0.07 以下のポリオキシアルキレンポリオール(A)とラクトンとを反応させて得られるラクトン系ポリオールを用いることを特徴とするポリウレタン樹脂の製造方法。

【請求項 3】

ラクトン系ポリオールの水酸基価が 4 ~ 28 である、請求項 1 または 2 に記載の製造方法。

【請求項 4】

ポリオール(A)とラクトンの反応割合が質量比で 20 ~ 98 / 2 ~ 80 である、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の製造方法。